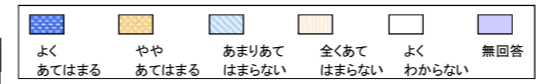
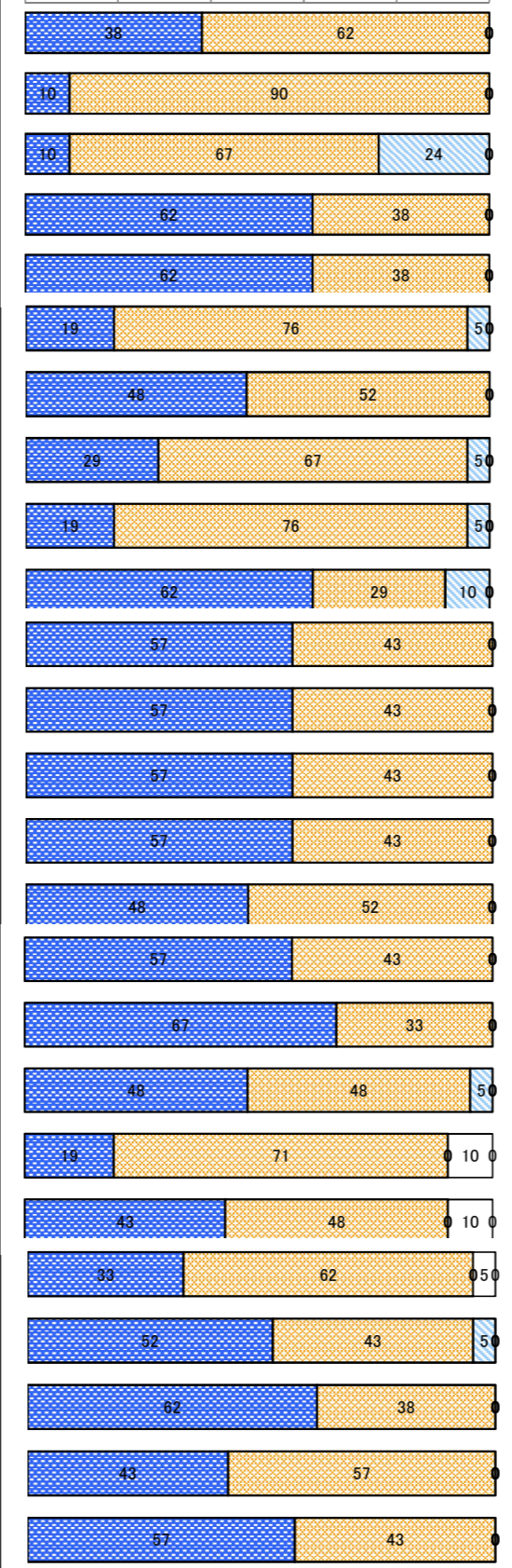


アンケートの結果			上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員						
			A	B	C	D	よく分からない	無答	
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	48	34	11	2	5	0
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	63	26	5	4	2	0
	3	基本的な生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的な生活習慣がしっかりしている。	56	31	11	1	2	0
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	35	40	17	3	5	0
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	60	27	8	4	1	0
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	58	30	6	3	3	0
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	53	34	7	2	5	0
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	65	20	9	5	1	0
	9	情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	60	29	7	2	2	0
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	49	24	18	5	4	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	61	31	4	1	4	0
	12	道徳教育	生命を大切にす気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐくむ教育を行っている。	39	42	9	4	6	0
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	48	30	12	5	4	0
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	68	19	8	2	3	0
	15	自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	17	78	4	0	1	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	49	21	9	4	17	0
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。	52	33	8	2	4	0
	18	学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	71	20	4	2	4	0
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	25	18	25	19	12	0
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	53	24	7	5	11	0
各学校の特色ある教育	21	確かな学力の定着	放課後の学習や家庭学習の取り組みを通して、児童の確かな学力の定着のための指導を行っている。	45	28	20	3	5	0
	22	規範意識の向上	周りに流されず、自ら判断して望ましい言動ができるように、継続した指導を行っている。	40	42	9	3	6	0
	23	集団活動の充実	自己の役割を自覚し、仲間と協力できるよう集団活動の充実を図っている。	49	31	13	1	6	0
	24	安全意識の向上	危険を察知し、回避し、児童が安全な生活を送ることができるように指導を行っている。	58	26	8	2	5	0
	25	健康・体力の向上	食育や体育の指導を通して、児童の心と体の健康、体力の向上のための指導を行っている。	60	27	8	1	4	0

無効票を除く(%)



0% 20% 40% 60% 80% 100%



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）	
1	学校だより、保護者会、ホームページ等で周知した結果、児童・保護者・教職員の肯定的回答が8割を超えた。経年での推移も向上しており、教育目標の理解が進んできたと考えられる。
2	児童・保護者・教職員の肯定的回答がほぼ9割を示し、経年でも向上していることから、生き生きと学校生活を送っていると感じられる。しかしながら教職員の「よくあてはまる」が急減していることから、コロナ禍での影響が考えられる。
3	児童・保護者の肯定的回答が8割を超えているが、昨年から微減している。教職員に焦点を当てると、肯定的回答が10ポイント程減少している。一時期生活指導上の課題がみられたことに起因していると考えられ、基本的な生活習慣について継続的な指導が必要であると考える。
4	児童・保護者・教職員共に経年で見ると向上しているが、児童と教職員の肯定的回答で15%の開きが見られる。自分を認めてほしいと望んでいると考えられ、より丁寧に個の状況に応じた指導を行う必要があると考える。
5	肯定的回答は児童8割、保護者・教職員が9割を超え、また経年での推移でも向上していることから、概ね良好と捉えられるが、感染症対策や防災、安全教育など更なる改善を進めていきたい。
6	児童・保護者・教職員共に8割5分程度の肯定的な回答であり、経年でも向上していることから概ね良好とは言える。児童の否定的回答も減少傾向にあるが、更なる指導力向上に努めていきたい。
7	児童・保護者・教職員共に肯定的回答が8割を超え、経年でも数値が向上していることから、習熟度別指導をはじめ、授業改善の成果と言える。今後も指導の工夫を進めたい。
8	児童・保護者・教職員共に肯定的回答が8割5分を超え、あらかじめ寺子屋等の取組が評価されたと考えられる。引き続き、個に応じた課題への対応や家庭学習へのフォローをする必要がある。
9	児童・保護者・教職員共に肯定的回答が8割5分を超え、前年度比較においても20ポイント以上の改善がみられた。今年度、ICT環境の整備が進んだことと教職員の積極的な活用によるところが大きいと考える。
10	肯定的回答が8割程度と読書活動に力を入れてきた成果である。調べ学習時の図書館司書によるリファレンスサービスも充実している。家読や年間を通じての全教員による読み聞かせや校長によるブックトーク等の取組の成果と考える。
11	肯定的回答が8割5分を超え、経年推移でも向上していることから、人権感覚を高める教育の効果が表れていると言える。保護者や関係機関との連携も積極的に進んでいる。
12	否定的回答を大きく減らすことができた。「特別の教科 道徳」をさらに一層充実させるために、児童の道徳性を育む教育を全教職員で実践していることの結果といえる。
13	肯定的回答が向上するなど改善が見られる。特別支援教育コーディネーターを中心に、スクールカウンセラーや外部機関と連携し、教育相談を充実させてきたことの結果と捉えることができる。
14	経年でも向上傾向にあり、概ね良好な結果である。きょうだい班活動などの特別活動について改善を図った。今後もコロナ禍の中でどのような関わり方が適切であるのかなどを考えながら進めていきたい。
15	自治的な活動について、児童・保護者・教職員共に肯定的回答が9割を超えるなど、大きく改善が見られた。あいさつスタンププロジェクトなど、新たに取り組んだことも、成果に繋がっているのではないかと考える。
16	学校だより、学校ホームページはもちろんのこと、グーグルクラスルームを活用した発信を常時行っていることもあり、児童・保護者・教職員共に肯定的回答が10ポイント以上向上しており、その効果が現れている。
17	特に児童の肯定的回答が昨年度と比較し12ポイント向上するなど、特別支援教育コーディネーターをはじめとして、スクールカウンセラーや諸機関を積極的に活用した相談活動を実践していることの結果として捉えられる。
18	コロナ禍でありながらも、肯定的回答が8割を超え、昨年度比較でも10ポイント向上している。運動会、音楽会等の行事やオンラインを積極的に活用した公開などの効果の表れであると考えられる。今後も状況に応じた取組を行っていく。
19	昨年度に引き続き、地域の行事もほぼ中止になるなど、関わりをもつことが困難な状況が続いている。特に児童の肯定的回答が経年でも減少しており、連携を図っていけるよう、学校としてできることを考えていきたい。
20	経年でも改善傾向ではあるが、保護者と教職員の肯定的回答に乖離が見られる。より丁寧に関わるなどするとともに、対応したことの可視化が必要と考え、どのように解決したかなどを発信していくようにしたい。
21	肯定的回答が改善傾向にあるとはいえ、児童・保護者と教職員間で評価の差が見られ、特に児童に問題意識が見られる。学力調査の結果でも改善傾向ではあるが、デジタルコンテンツや寺子屋の活用など、引き続き学力向上への取り組みを進めていく。
22	肯定的回答について経年で見ると向上傾向である。また昨年度は教職員と児童・保護者とが肯定的回答に20ポイントの開きがあったが、10ポイント程に差が縮まった。今後も教職員間で共通理解を図り、規範意識の基盤となる学級指導の充実に向けて取り組んでいく。
23	コロナ禍で制限のある中での活動ではあるが、経年比較で大幅に改善されている。特に特別活動の取組を大きく改善を図ったことが大きい。今後も学級で取り組み、児童への働き掛けを進めていきたい。
24	安全指導を始め、生活指導に関わる取組について改善を図っているところであり、その成果が表れているのではないかと考える。今後も、自ら安全に気を付けることを児童自身に感じさせる指導を行ってきたい。
25	概ね良好な結果である。児童は休み時間など元気に外遊びをしている。運動会や持久走記録会に向けた取り組みでも、児童は生き生きと活動している様子が見られた。体力向上に向けた取り組みの継続・充実を図ってきたい。